

平成 29 年度 西日本大会に参加して

日本技術士会理事・九州本部研修委員長 清崎淳子

第 23 回西日本技術士研究・業績発表会年次大会（松山）が、大会テーマ『地域の文化とまちづくり～技術士の役割～』のもと、四国本部の主催で開催されました。私は 11 月 18 日（土）の式典から出席しました。今回の目玉は、女性のセッションが企画されている事です。

各本部から、一般・青年・女性と発表者が集い、二つの分科会が開催されましたが、私は大会サブテーマ『女性がつなぐ技術と社会』と掲げられた第二分科会に参加しました。論文発表 4 件と分科会参加者によるワークショップ・ディスカッションの組み合わせ分科会でした。

発表は以下の 4 件です。

- ・「地域交流の中に見る科学リテラシーの必要性」山口裕子氏（上下水道、中国本部）
- ・「「女性技術者」「女性管理職」はキーワード」河野千代氏（建設、近畿本部）
- ・「北九州市の公害克服における女性の活躍とその後の環境政策」村上恵美子氏
（環境・総監、九州本部）
- ・「水質調査の意義と役割～女性技術者として～」末次 綾氏（建設・環境、四国本部）

同じ「水」を扱う技術でも、それぞれ違った方向から関わられている話を聴くことができました。

また、環境問題に取り組む原動力が女性の生活者目線であることなど、たいへん身近に感じる意義深い話もありました。各発表者の論文も頼もしく読ませていただきました。

次に、ワークショップ・ディスカッションは、まずは自己紹介の「アイスブレイク」から始まりました。5 名ずつ程度のグループに分かれ、予定されたテーマの中で知らない者同士が交流を始めるのですが、発表者 4 名がファシリテータとなり進められました。グループごとのテーマと共通のテーマがありましたが、短い時間の中、忌憚なく意見交換できたような気がします。印象深かったのは、共通テーマ「女性技術者の育成に必要な職場環境とは」で出て来た意見です。

まずは、勤務時間を緩やかにしたいこと、更衣室などの設備を整備して欲しいことといった、身近なそして基本的な問題です。女性が一人しかいない、前例がなかった、など、直接言いづらい、何度もお願いできないといったこともあるのではないのでしょうか。そのような時は、情報を伝えることによって改善できるのではないのでしょうか。例えば、事業所に対するアンケートのような取り組みをして、各所から出て来た意見や事例として改善策を提示することはできないかと思います。アンケート結果報告を広報して、周辺から環境改善・整備を促すといいのかもしれない。地域本部や県支部単位の地域のまとまりでも取組めないのでしょうか。

また、技術士試験など、決められた場所・時間が大変厳しい条件だという点も話題になりました。子育て中はおさらですね。例えば、公務員の昇級試験に猶予期間が設けられているとか、一定の措置を検討されている例が紹介されました。それから試験時に託児をとの意見もありました。試験申し込み時に対応してもらえるかどうか明記されていないと、初めから足踏みしてしまうことになります。個々の申し出があった時だけということではなく、広く情報が受け取れるよう試験を実施する側に工夫が必要ではと思いました。

以上、参加して感じたことをご報告いたします。交流が生まれて意見交換ができたので、それを活かしていく動きにつなげていきたいなと思いました。ひとつ加えますと、女性と限らずいろいろな立場のことを…と共通して考えられているように感じました。

心から皆さまのご活躍をお祈りしています。